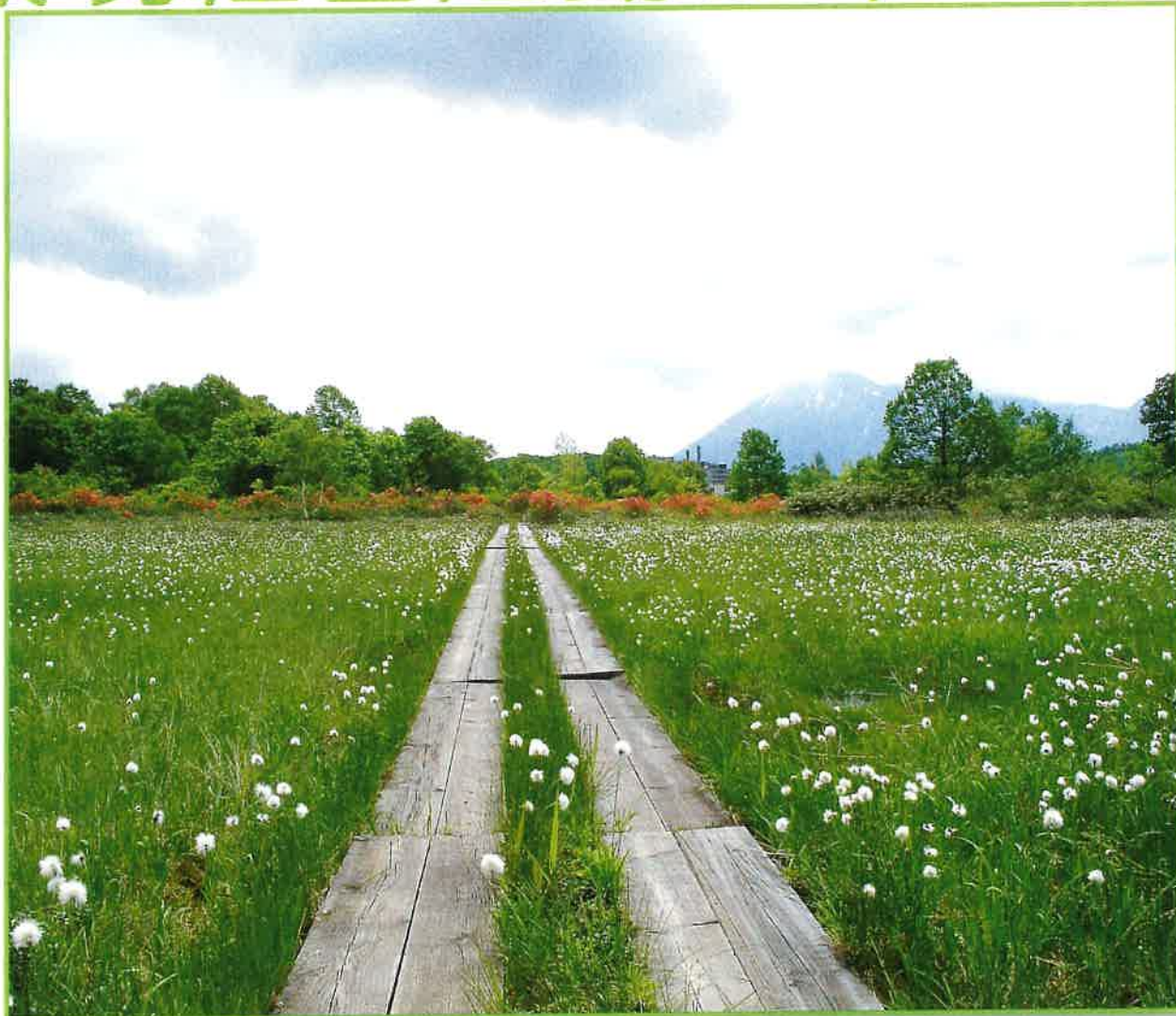


令和4年度



環境省
エコアクション21
認証番号 0010405

環境経営活動レポート



対象期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

発行年月日：令和5年7月1日

改定年月日：



株式会社熊谷工務店

目 次

	頁
1 環境経営方針	1
2 事業概要&認証登録範囲	2
3 実施体制	3
4 環境経営目標	4
5 環境経営活動計画	5
6 環境経営目標の実績	6
7 環境経営活動計画の取組結果とその評価、 次年度以降の取組内容	7
8 次年度以降の取組内容・環境経営目標	8
9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価並びに違反、訴訟等の有無	9
10 代表者による全体評価と見直し結果	9

環境経営方針

〈環境経営理念〉

株式会社熊谷工務店は、昭和33年以来、建設業に係る企業経営に取り組んでまいりました。

当社は、この地域の美しい自然環境を将来世代に引き継いでいくために、生活環境及び自然環境に配慮した企業運営に努め、地域の環境保全に寄与することはもっとも重要な使命であると考えています。

当社は、建設工事に係る事業活動に際し、環境負荷の低減及び環境保全に自主的・積極的に取り組み、継続的な改善を行うことを誓約します。

〈行動指針〉

1. 事業活動の中で快適な生活を送るため環境保全を考えた活動を行います。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物削減
 - (3) 化学物質削減
 - (4) 水・排水量の削減
2. お客様との契約書に従い、省エネルギーの工法・設備機器の更新、リフォームを推奨します。
3. 環境・安全運転・教育を通し社員の意識向上に努めます。
4. 事業活動に関連する法規制は、確実に遵守します。
5. 地域貢献活動・環境保全活動への参加、環境活動レポートの公表など、地域との環境コミュニケーションに努めます。

制定日：平成26年 8月 1日

改訂日：平成28年 5月31日

改訂日：令和 2年 5月31日

改訂日：令和 4年 5月31日

株式会社熊谷工務店
代表取締役 熊谷 則子

2 事業概要 & 認証登録範囲

1 名称及び代表者名

株式会社熊谷工務店
代表取締役 熊谷 則子



2 所在地

本社 盛岡市愛宕町9番10号
作業所 盛岡市愛宕町19番7号

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

いわて地球環境にやさしい事業所 (4つ星)

環境管理責任者 佐藤 友美
TEL 019-623-5465 FAX 019-622-6340
URL <https://kumagaik.jp>



4 事業活動の内容

【特定建設業】

建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業、解体工事業

【一般建設業】

土木工事業、舗装工事業、水道施設工事業

5 事業規模

資本金 3,500万円
完成工事高 44,400万円 (令和4年度)
従業員数 16名
延床面積 本社: 180.75 m 作業所: 210.34 m²



いわて女性活躍認定企業 (ステップ2)

6 認証登録範囲

全サイト・全組織・全事業活動が認証登録範囲

7 沿革

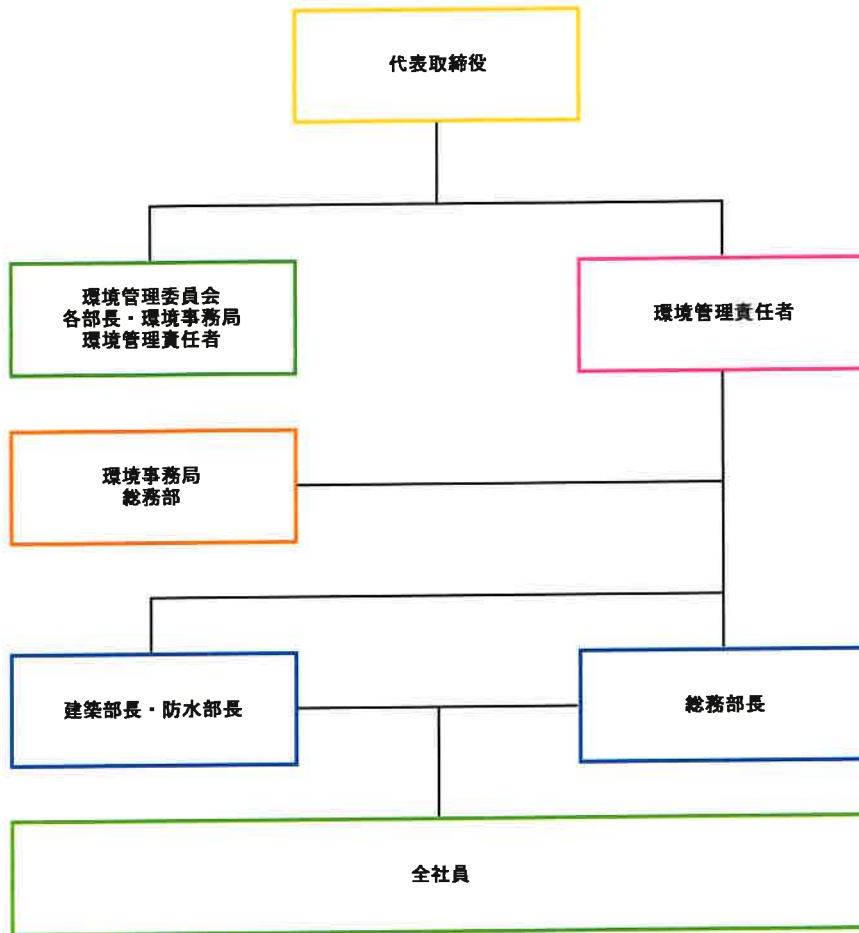
昭和33年	4月	熊谷忠雄個人にて熊谷工務店を創業
昭和39年	3月	有限会社熊谷工務店を設立 資本金250万円
昭和51年	2月	熊谷キミ 代表取締役に就任
昭和62年	9月	株式会社熊谷工務店に組織を変更 資本金2,000万円に増資
平成元年	3月	資本金を3,500万円に増資
平成16年	12月	熊谷キミ 代表取締役会長に就任 熊谷則子 代表取締役社長に就任
平成27年	1月	エコアクション21 認証取得 いわて地球環境にやさしい事業所 認定取得
令和元年	11月	いわて女性活躍認定企業等 (ステップ1) 認証取得
令和3年	9月	いわて子育てにやさしい企業等 認定取得
令和3年	11月	いわて女性活躍認定企業等 (ステップ2) 認証取得



いわて子育てにやさしい企業

3 実施体制

1 組織



2 役割・責任・権限

役職	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・課題とチャンスの明確化。 ・実施体制の構築。
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長は社長とし、環境管理責任者が召集する。 ・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を環境責任者は各部門で実施する。 ・内部監査の代わりに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合が有る場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。
環境事務局 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
部門責任者 (部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 ・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。 ・従業員に対する教育訓練の実施。
全社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4 環境経営目標

1 環境経営目標の設定

当社では、令和元年度を基準年度として中期及び単年度の環境経営目標を、それぞれ表1のとおり設定し、環境経営活動に取り組んでおります。

表1 環境経営目標 基準年度(令和元年度)比の削減(増加)率(%)

項目	基準年度実績値		中期目標(内単年度目標)		
	実績値	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素排出量	31,042	kg-CO ₂	1%削減	2%削減	3%削減
電力使用量	19,659	Kwh	1%削減	2%削減	3%削減
軽油使用量	1,190	L	1%削減	2%削減	3%削減
ガソリン使用量	4,948	L	1%削減	2%削減	3%削減
灯油使用量	2,332	L	1%削減	2%削減	3%削減
LPG使用量(※データ管理のみ)	継続	kg	継続	継続	継続
都市ガス使用量(※データ管理のみ)	継続	Nm ³	継続	継続	継続
産業廃棄物排出量	104	t	1%削減	2%削減	3%削減
一般廃棄物排出量	0.32	t	1%削減	2%削減	3%削減
総排水量(水資源投入量) (※データ管理のみ)	継続	m ³	継続	継続	継続
化学物質の削減(トルオール)	153	kg	1%削減	2%削減	3%削減
省エネルギーの工法、設備機器の更新リフォームを推奨する	継続	件	継続	継続	継続
環境苦情0件を継続する	0	件	継続	継続	継続
環境関連教育	1	回	1	1	1
地域貢献活動(4月・8月)	2	回	2	2	2
その他の取組(カーボンオフセット)	▲1	t	▲1	▲1	▲1

注1: 購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表

(東北電力)の実排出係数0.523kg-CO₂/kwhを使用。

注2: 都市ガス、LPG、総排水は使用量が僅かのため数値管理とする。

注3: 地域貢献活動は4月と8月に参加する。

注4: その他の取組としてカーボンオフセットに参加する。

5 環境経営活動計画

当社では、環境経営方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境経営目標を達成するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に等に取り組んでおります。取組の内容は、表2のとおりです。

表2 主な環境経営活動計画の取組内容

項目		取組内容
二酸化炭素排出量の抑制	照明	使用していない部屋は照明消灯を確実に実行する
		不要な照明を消灯する
		事務室の部分照明を実行する
	冷暖房	冷暖房の無駄を省きクールビズ、ウォームビズを励行する
	節電	退社時はパソコンの電源を切る
	車輛	アイドリングストップを実践する 急発進・急加速はしない 冷暖房の控え目運転の実施
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物の削減	ミスコピーを減らす
		業務に支障のない文章は両面印刷コピーを行う
		古紙リサイクルを徹底する
		電子メールを利用し、紙の使用量削減に努める
		郵便物・宅配便等の包装はできるだけ簡易なものを選ぶ
		OA機器のトナー、インクカートリッジの回収、リサイクルを推進する
産業廃棄物(建設副産物)の削減	工事の工程ロスを削減する	
	分別を徹底し、保管する	
	マニフェストをもとに廃棄物の適正な処理を行う	
	廃棄物処理業者に廃棄物処理が適正に行われているか確認する	
節水・排水	用水・排水	トイレ用水の節約に努める
		水道水を流しながら使用しない
		水道水を出し過ぎない
化学物質の削減		化学物質(トルオール)の使用量の削減に努める
その他の取組	環境配慮工事	騒音・振動等発生する場合は打合せの上、変更等を含めて検討する
		粉塵防止のため適切な散水を行う
		悪臭が発生する恐れのある作業の場合は作業方法等に配慮する
		公共工事：発注者の仕様に満足する施工を行う 民間工事：省エネルギーの工法、設備機器の更新リフォームを推奨する
	その他	環境に関するセミナー等に積極的に参加する
		会議・朝礼等で環境活動の報告を行う
		地域で開催される清掃活動等に参加する
		カーボンオフセット(排出権)を購入する

6 環境経営目標の実績

当社では、環境経営目標の達成状況の確認・評価を行いました。
今回は、令和4年4月から令和5年3月までの実績についての評価結果を報告いたします。

表3 当該年度の環境経営目標の達成状況等

項目	単位	令和元年度 (基準年通年)	当該年度 (令和4年4月～令和5年3月)				結果
		実績値	削減(増加)目標	目標値	実績値	金額	
二酸化炭素合計	kg-CO ₂ /年	31,042	3%削減	30,111	29,011		○
			評価	排出量を削減でき目標を達成できて良かった。			
電力使用量	kwh/年	19,659	3%削減	19,069	10,495	361,020	○
			評価	大幅に削減できて良かった。			
軽油使用量	L/年	1,190	3%削減	1,154	1,918	79,779	×
			評価	発電機で使用する軽油が工事量に伴い増加した為、目標値を超えてしまった。			
ガソリン使用量	L/年	4,948	3%削減	4,800	5,249	1,220,163	×
			評価	遠方の現場が多く、ガソリンの使用量が増加した。			
灯油使用量	L/年	2,332	3%削減	2,262	2,424	264,028	×
			評価	例年よりも寒い冬になり、12月から2月までの3ヶ月間で灯油の使用量が増加した。			
LPG使用量 ※データ管理のみ	kg/年	66	継続	継続	継続	継続	
			評価				
都市ガス使用量 ※データ管理のみ	Nm ³ /年	8	継続	継続	継続	継続	
			評価				
産業廃棄物	t/年	104	3%削減	101	91.54	1,572,960	○
			評価	解体工事が少なかったため、廃棄物の量も抑えられた。			
一般廃棄物	t/年	0.32	3%削減	0.31	0.23		○
			評価	僅かながら排出量を減らすことができた。			
総排水量(節水) ※データ管理のみ	m ³ /年	198	継続	継続	継続	継続	
			評価				
化学物質の削減(トルオール)	kg/年	153	3%削減	149	82		○
			評価	引続き、化学物質は適正に管理し使用量を減らす努力をする。			
省エネルギーの工法、設備機器 の更新リフォームを推奨する	件/年	255	継続	継続	継続		○
			評価	※受注件数が255件だった。			
環境苦情0件を継続する	件/年	0	0	0	0		○
			評価	苦情0件を維持できるよう引き続き努力したい。			
環境関連教育	回/年	1		1	2		○
			評価	外部教育を受けた者が社員に報告し、皆に周知した。			
地域貢献活動(4月・8月)	回/年	2		2	4		○
			評価	今年度は全部で4回参加した。			
その他の取組(カーボンオフセット)	t-CO ₂ /年	▲1		▲1	▲1		○
			評価	1tカーボンオフセットを行った。(三田農林㈱)			

注1: 購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表(東北電力)の実排出係数0.523kg-CO₂/kwhを使用。

注2: 都市ガス、LPG、総排水量は使用量が僅かのため、数値管理とする。

地域貢献活動の状況

- ・河川敷清掃(令和4年4月)
- ・御所湖清掃(令和4年6月)



- ・道路清掃(令和4年8月)
- ・御所湖清掃(令和4年10月)



7 環境経営活動計画の取組結果とその評価

1 取組結果の評価

表4 主な環境活動計画の内容と取組内容

項目		実施状況の評価	達成度
二酸化炭素排出量の抑制	照明	使用していない部屋は照明消灯を確実に実行する	◎
		不要な照明を消灯する	◎
		事務室の部分照明を実行する	◎
	冷暖房	冷暖房の無駄を省きクールビズ・ウォームビズを励行する	○
	節電	退社時はパソコンの電源を切る	◎
	車両	アイドリングストップを実践する	◎
		急発進・急加速はしない	◎
冷暖房の控え目運転の実施		○	
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	ミスコピーを減らす	◎
		業務に支障のない文章は両面印刷コピーを行う	◎
		古紙リサイクルを徹底する	◎
		電子メールを利用し、紙の使用量削減に努める	◎
		郵便物・宅配便等の包装はできるだけ簡易なものを選ぶ	◎
		OA機器のトナー、インクカートリッジの回収、リサイクルを推進する	◎
	産業廃棄物	分別を徹底し、保管する	◎
		マニフェストをもとに廃棄物の適正な処理を行う	◎
		廃棄物処理業者に廃棄物処理が適正に行われているか確認する	◎
節水・排水	用水・排水	トイレ用水の節約に努める	◎
		水道水を流しながら使用しない	◎
		水道水を出し過ぎない	◎
化学物質の削減		化学物質（トルオール）の使用量の削減に努める	◎
その他の取組	環境配慮工事	建設資材の再資源化を促進する	◎
		騒音・振動等発生する場合は打合せの上、変更等を含めて検討する	◎
		粉塵防止のため適切な散水を行う	◎
		悪臭が発生する恐れのある作業の場合は作業方法等に配慮する	◎
		公共工事：発注者の仕様に満足する施工を行う	◎
		民間工事：省エネルギーの工法、設備機器の更新リフォームを推奨する	◎
	その他	環境に関するセミナー等に積極的に参加する	◎
		会議・朝礼等で環境活動の報告を行う	◎
		地域で開催される清掃活動等に参加する	◎

◎：評価できる ○：まずまず評価できる △：評価できない

8 次年度以降の取組内容

次年度の取組内容（達成期間は各年度末）

(1) 二酸化炭素排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷暖房の無駄を省き電気・灯油の使用量を抑える ・ 引続き車両の入替が合った場合、エコカーの導入を検討する
(2) 廃棄物の排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各々のごみの排出を減らす努力をする
(3) 化学物質の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ トルオールの使用量を削減する
(4) その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設資材の再資源化をさらに進める ・ 引続き環境苦情0件を継続する

次年度の環境経営目標

環境経営目標の設定

当社では、令和4年度を基準年度として中期及び単年度の環境経営目標を、それぞれ表1のとおり設定し、環境経営活動に取組んでおります。

表1 環境経営目標 基準年度(令和5年度)比の削減(増加)率(%)

項目	基準年度実績値		中期目標(内単年度目標)		
	実績値	単位	令和5年度	令和6年度	令和7年度
二酸化炭素排出量	28,319	kg-CO ₂	1%削減	2%削減	3%削減
電力使用量	10,495	Kwh	1%削減	2%削減	3%削減
軽油使用量	1,918	L	1%削減	2%削減	3%削減
ガソリン使用量	5,249	L	1%削減	2%削減	3%削減
灯油使用量	2,424	L	1%削減	2%削減	3%削減
LPG使用量 (※データ管理のみ)	継続	kg	継続	継続	継続
都市ガス使用量 (※データ管理のみ)	継続	Nm ³	継続	継続	継続
産業廃棄物排出量	92	t	1%削減	2%削減	3%削減
一般廃棄物排出量	0.46	t	1%削減	2%削減	3%削減
総排水量(水資源投入量) (※データ管理のみ)	継続	m ³	継続	継続	継続
化学物質の削減(トルオール)	153	kg	1%削減	2%削減	3%削減
省エネルギーの工法、設備機器の更新リ フォームを推奨する	継続	件	継続	継続	継続
環境苦情0件を継続する	0	件	継続	継続	継続
環境関連教育	1	回	1	1	1
地域貢献活動(4月・8月)	2	回	2	2	2
その他の取組(カーボンオフセット)	▲1	t	▲1	▲1	▲1

注1：購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表

(東北電力)の実排出係数0.457kg-CO₂/kwhを使用。

注2：都市ガス、LPG、総排水は使用量が僅かのため数値管理とする。

注3：地域貢献活動は4月と8月に参加する。

注4：その他の取組としてカーボンオフセットに参加する。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける環境関連法規（建設リサイクル法・廃棄物処理法等）について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また過去3年間、関係当局からの批判等の指摘、住民からの苦情、訴訟について問題はありませんでした。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
環境経営方針	全社員、方針に沿って取組んでいる。	見直しなし。
環境経営目標	工事受注内容から見て、目標の実績結果は相応であるとする。	見直しなし。
環境経営活動計画及び実施体制	以前より電子メールを多用する等、積極的に取組んでいる。	見直しなし。
その他		
全体評価	環境にやさしい行動を考えることにより、無駄な行為をしないように、より効果的に仕事を進める努力がみられ、取組みとして評価する。	